## 東京弁護士会

# 再審法改正と 死刑制度を考える

<mark>- 袴田事件と菊池事件か</mark>ら -

死刑確定後、44年もかかった2024年10月の袴田事件の再審無罪確 定を契機に、冤罪救済のため迅速かつ適切な再審法改正への機運が高まっ

国会では超党派の議員連盟が発足し、2025年6月に議員立法による改 正案が国会に上程されています。<mark>他方で法制審での審議は、証拠開示の範</mark> 囲を限定し、再審開始決定に対する検察官の不服申立て禁止にも消極的で、 改正の骨抜きが強く懸念されます。

さらに、死刑執行後に再審請求された菊池事件が2026年1月再審請求 審の決定を迎えようとしています。

菊池事件は、国賠訴訟で、その審理が憲法13条、14条1項に違反 し、公開原則を定めた憲法37条1項及び82条1項に違反する疑いが ある旨判示されており、制度の不備が命に関わる深刻な問題として浮 き彫りになっています。

死刑判決を受けて長期拘留の上、再審無罪となった袴田事件と死刑 執行後に再審請求を行っている菊池事件を例に、再審法改正と死刑 制度のあり方を考えます。



## 特別報告 菊池事件

#### 金丸哲大弁護士

東京弁護士会所属 死刑執行後の再審請求 ~2026年1月に 予定される再審請求審 判決を控えて~



### 映像上映

ANN テレメンタリー

共同代表。

長きにわたり~袴田事件と冤罪の歴史~

大分県弁護士会所属

「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟

西日本弁護団共同代表。ハンセン病市

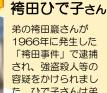
民学会共同代表。菊池事件再審弁護団



京都弁護士会所属

日弁連再審法改正推進室長、法制審議会 刑事法(再審関係)部会委員、供述弱者 である「共犯者」の自白で有罪とされた 大崎事件再審弁護団共同代表。

ビデオメッセージ



され、強盗殺人等の 容疑をかけられまし た。ひで子さんは弟 の無実を信じ、長年 にわたり支援を続け ました。



審請求が続いている

菊池事件

会館2階講堂クレオ

主催:東京弁護士会

共催:日本弁護士連合会

1950年代、ハンセン病患者とされた男性が証拠不十分のまま

殺人犯とされ、特別法廷で死刑判決を受け執行された事件。差

別と偏見に基づく裁判の不当性が後に憲法違反と認定され、再

問いあわせ:東京弁護士会人権課

03-3581-2205 Tel.

# 申込不要 参加無料

再審



東京メトロ霞ヶ関駅 B-1出口から直通